

畿央大学

健康科学部

人間環境デザイン学科

第10回 卒業制作・論文作品集

卒業制作・論文作品集 10

畿央大学健康科学部
人間環境デザイン学科
2015

The 10th Graduation Works.
Kio university
department of Human Environmental Design.

御挨拶

畿央大学 学長

冬木 留子

珍しく今年はここ大和路には一ひらの白雪も見ることなく、早や新しい春を迎えられそうであります。

先日改めて第10回卒業生の作品発表会場に出かける事になりました。入学以来4年間の経過の速さが様々に思い出されて参りました。卒業を目前に控えた皆さんは、今は毎日の時間をさぞかし宝物の様に大切に過ごしている事と思います。考えると、人生とは時間の集結であり、一瞬一瞬はまさに捨てざる事の出来ぬ宝物ではないでしょうか。今在学中の畿央大学における学生生活も再び巡りこぬ貴重な時間があります。出生の時や場所は異なる人々が、この近畿地方の中央に設置されている大学において入学を果たし、出会い得たことの不思議な現実に関心をかけ、今後の人生に美しい夢を託して、着実な歩みを続けて頂きたいと思うばかりであります。必ず再び相まみえる日を胸に描き、苦しみを喜びに変える力を発揮して歩みつづけて頂きたいと思えます。皆さんは、今後共建学の精神である「徳をのばす・知をみがく・美をつくる」を人生の指標として着実な歩みを継続して頂きたいと強く期待しております。着実な歩みの結果には幸せな人生が大きく胸をひらいて皆さんを待ちつづけていることと信じて止みません。

03 学長ご挨拶

制作

- | | | |
|----|--------------------------|--|
| 08 | [学長賞]
岩井 涼子 | ARCHITECTURE PAVILION ~日本橋建築大学~ |
| 12 | [優秀賞]
上地 七菜 | 高田川沿いの「まちのひろば」 |
| 14 | [優秀賞]
上田 加奈 | 「モモの世界」 |
| 16 | [優秀賞]
熊川 棕介 | UMEDA air promenade -JR 大阪横断遊歩道- |
| 18 | [優秀賞]
後和 伸之介
吉岡 俊輔 | 綿's formal ~新たな可能性~ |
| 20 | [優秀賞]
藤田 大樹 | The Rock Temple |
| 22 | 岡村 涼太 | 湖畔のパッシブソーラー |
| 23 | 岡本 瑞月 | Green Stripe Furniture |
| 24 | 加藤 圭祐 | 道の駅「美杉」 |
| 25 | 北村 彩乃 | 魅力発見 MAP八尾ファミリーロード |
| 26 | 楠瀬 遥 | 薔薇の贈物 |
| 27 | 楠田 明大 | KioMall |
| 28 | 小林 杏佳 | オノマトベ絵本 |
| 29 | 杉森 由佳 | 緑の丘の白亜 図書館 |
| 30 | 関本 彩乃 | 折り紙行灯 |
| 31 | 竹歳 直嗣 | 歩み ~老人コミュニティ道のいえ~ |
| 32 | 田淵 桃子 | 永和ひろば |
| 33 | 丹波 一志 | 千鳥格子の道 |
| 34 | 茶谷 千佳 | 揺れる心 ~sakura~ |
| 35 | 山本 利薫 | 妊娠中から産後まで体型の変化に対応する衣装の制作
enjoy maternity dress!!! ~変わりゆく身体~ |
| 36 | 新原 将光 | 展望台レストラン |
| 37 | 平井 美帆 | 藍染の八重葵
<small>オクテット</small> |
| 38 | 平山 帝都 | 住めば魅家戸 |
| 39 | 福井 子寧 | 千日前 UNDERGROUND STREAM |
| 40 | 福原 希 | 花を紡ぐ ~花嫁への祝福~ |
| 41 | 堀口 拓樹 | NEW COOP -真美ヶ丘生協の新提案- |

42	松井 美樹	光のパビリオン
43	松田 眞子	琵琶湖に建つ集合別荘
44	村上 和也	I LOVE 藍 ～京×琉球～
45	山片 実咲	咲き継ぐ花 ～薬師寺花会式の造花に触れる～
46	山蔦 眞子	刺繍に心をよせて
47	吉成 和真	奈良と暮らす
48	嶋 博也	マルチキャリアバッグ
49	山之内 貴宏	服部天神駅改修計画
50	[制作風景]	

論文

52	[優秀賞] 延原 成穂	暑熱環境における生理反応の個人差 ～女子大学生を対象とした人工気候室実験～
54	乾 裕一 志茂 直樹 堀田 晃平 松田 大雪 山上 華奈	御所市における「金曜カフェ～つどい～」の 運営に関する報告
58	大畑 良貴 柴田 裕人 西浦 康介	夏期における大学生の生活習慣の実態
60	荻原 邦彦 榮 南海 田中 佐右紀	香りやにおいに関する研究 ～大学生のにおい評価における個人差と季節差～
62	奥村 麻由 呉竹 佑麻	日本の住まいの知恵に関する一考察 ～今井町 Y 邸の事例と雑誌掲載作品による～
64	田中 佑弥 中川 慧太	介護福祉施設における介護ユニフォームに関する研究 －視覚効果を中心に－
66	鶴田 智昭 渡邊 大暉	冒険遊び場の実践報告
68	西本 ゆきこ	大学生を対象とした畳部屋の調査 －住まいにおける畳空間の実態及び その認識による今後の畳部屋の使われ方の検討－
70	本山 千恵	インターネットによる通信販売利用者の実態 ～利用状況、注意事項、トラブルの有無などの情報提示～
72	[講評会]	
76	[卒業作品展覧会]	
77	[講評]	

制作





ARCHITECTURE PAVILION

～日本橋建築大学～

岩井 涼子

Ryoko Iwai

藤井ゼミ

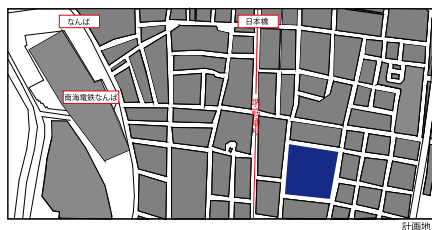
大阪の都心回帰が求められている。

全国の建築学生のメッカとなる建築大学を都心に建設。

全寮制で住み込み、建築づけとなる。その中で、建築を生み出し、作り出し、生産できる。「研究所・美術館・学生街・工場」を複合し、研究や学習だけでなく、キャンパス自体が建築文化の発信基地となる場所を実現しようと考えた。

文化を大切にしないといけな。ひとつは大学。
 京都の学生街は文化の発信源であるが、大阪市にはない。
 中小企業が持つ技術を大学と結びつけば、
 できることがいっぱいある。
 逆に大学にあるアイデアを町工場に持って行って
 商品につなげることもできるだろう。 — 山崎正和 ※1

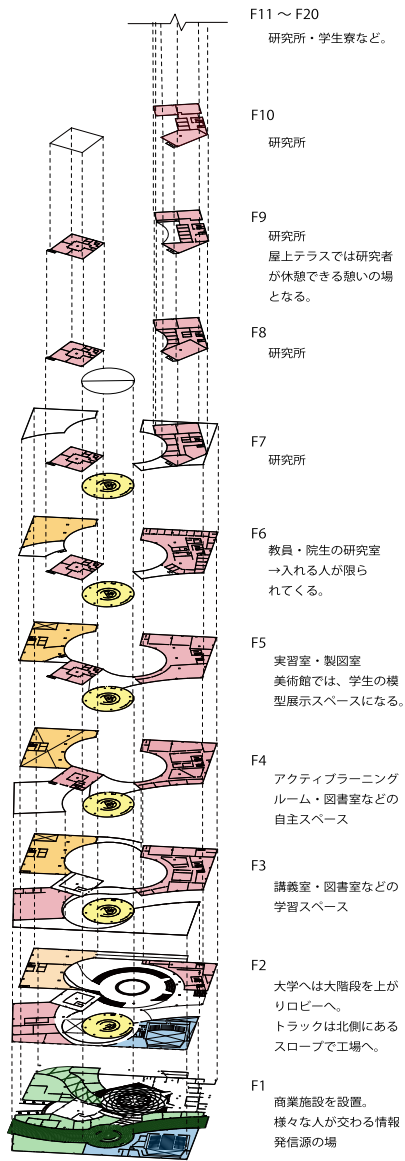
大学・研究所	自由に入出入可能
美術館	一流の建築作品の他に学生の作品を展示できる
学生街	一般の人と学生が交わる交点となる
ホール	学内の使用の他に貸しホールとして使用
工場	実際に生産しており、学生が体験することにより、モノの制作の依頼ができる



計画地



配課図・1階平面図



【制作】





明治生命館
設計：岡田信一郎・捷五郎 ※2



コロッセオ
古代ローマ ※3



ルイズ・ワイズビルディング
設計：アーキテクチュア・スタジオ ※4



カンピドリオ広場
設計：ミケランジェロ ※5





- ※ 1 2015年10月29日 朝日新聞「大阪呼び戻し 文化発信源に」
- ※ 2 http://www.geocities.jp/tokyo_oh_net/tyodaku.html
- ※ 3 <http://blogs.yahoo.co.jp/jphawaiiakanagawa/31322769.html>
- ※ 4 http://www.interblog.jp/bizmt/page/2008/10/post_209.html
- ※ 5 <http://am0918.blog84.fc2.com/blog-entry-184.html>

受賞のことば

私はなかなかテーマが決まらず、焦りと不安でいっぱいでした。その中で多くのアドバイスを下さった藤井先生、友達がいたからこそ作品を完成させることができました。

卒業制作を通して、悩み、苦しい時もありましたが、楽しくもあり…、色々な想いが詰まった忘れられない貴重な経験になりました。

今回、最優秀賞を頂くことができ、大変嬉しく思うとともに、手厚くご指導して下さいました藤井先生、相談のってくれた友達、一緒に頑張ってきたデザインのみんな、お手伝いしてくれた後輩達、支えてくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

私一人の力では決して完成することが出来ませんでした。本当にありがとうございました。

[制作]





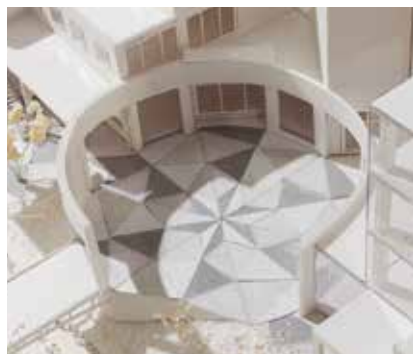
高田川沿いの「まちのひろば」

上地 七菜
Nana Ueji

三井田ゼミ



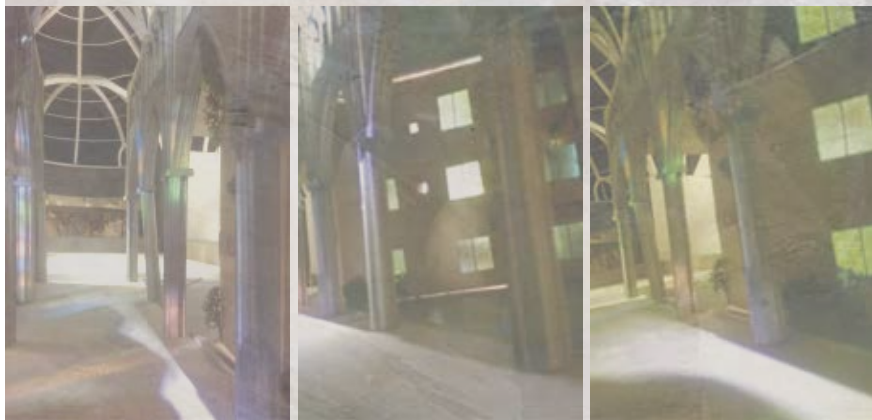
現在の高田川を訪れる人々は川に集うことや川とふれあうことが少ない。
そこで、高田川沿いに小規模図書館と生涯学習センターが一体となった人々が憩える
親水空間である「まちのひろば」を計画した。



[制作]



「モモの世界」

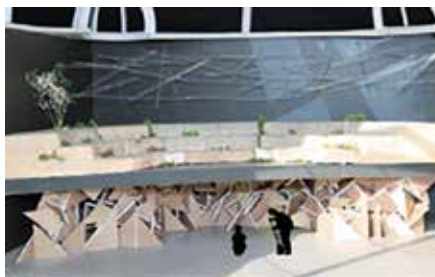


「モモの世界」

上田 加奈
Kana Ueda

藤井ゼミ

ミヒャエル・エンデ著、「モモ」の世界を建築で表現。
小説全体が演劇化すると考え、その舞台を設計する。
計画地は朽ち果てて使われなくなった3廊下式のバシリカ型教会とし、
そのリノベーションと考え、中央交差部を観客席、袖廊と内陣の3ヶ所を舞台とする。



普段心の中で思っていること、本当のことを言いたくなるんじゃないよ。



フージーさん、あなた時間の節約をしていますか？



我々の敵、モモを捜せ！！



マイスター・ホラ、時間って何ですか？



特にモモ友達には強気に働きかけろ！



灰色の男に後をつけられたんだ！



もう何も見たくありません。聞きたくありません。



街には笑いと喜びと感動が溢れました。

[制作]





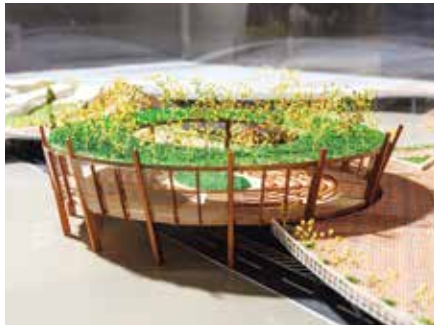
UMEDA air promenade -JR 大阪横断遊歩道-

熊川 棕介
Ryosuke Kumagawa

藤井ゼミ

梅田は西に向かって発展中だ。JR 南側は阪神～ザ・リッツ・カールトン大阪へ、北側は阪急～グランフロント大阪へと拡大し、北ヤード第二期計画も控えている。古くから発達した東側は、阪急・ウメチカをはじめ、多数の街路が網の目のように走るが西側は未だ……。駅西側を南北に繋ぐ遊歩道を計画し、広場には店舗や酒場が並び、自身が都市となる。





[制作]





綿's formal ～新たな可能性～

後和 伸之介 吉岡 俊輔
Shinnosuke Gowa Shunsuke Yoshioka

村田ゼミ

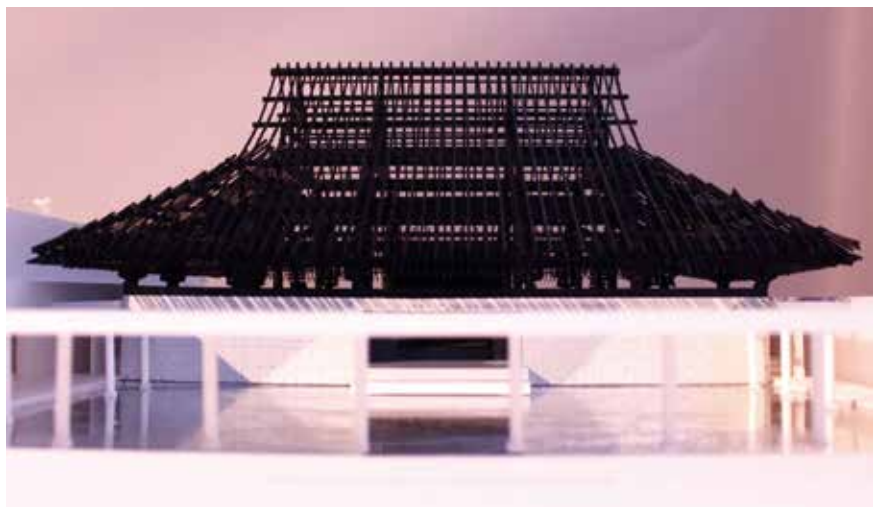
身近な素材、綿。
自らの手で綿の栽培から始めた本制作は、糸づくり、染色、縫製を経てメンズフォーマルへと姿を変える。
ひとつの種から生まれた綿が、新たな“可能性”を紡ぐ。





[制作]





The Rock Temple

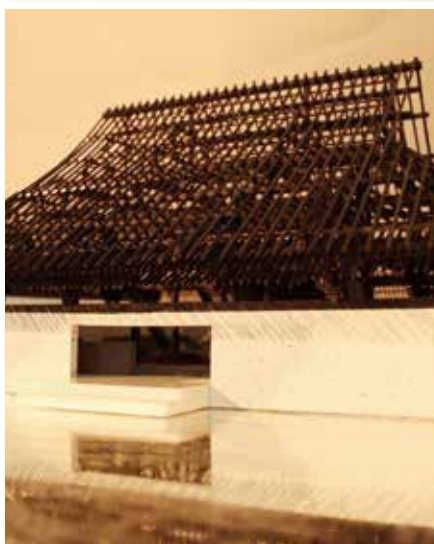
藤田 大樹
Daiki Fujita

三井田ゼミ

かつて『寺』が持っていた役割を復活させることで、人々の交流の機会が増え、地域の結びつきが強くなる。

まちに学び、大人に学び、子供に学ぶ。

新しい『寺』は人々の生涯の『心の拠り所』となる。



[制作]





湖畔のパッシブソーラー

岡村 涼太
Ryota Okamura

藤井ゼミ

湖畔に、省エネルギー住宅を設計する。
「日射」「室内気流」「風」などを配慮し、建物形状や窓配置を考える。
また、「琵琶湖」の水を熱源として利用する為建物下に引き込み、貯める。





[制作]



Green Stripe Furniture

岡本 瑞月
Mizuki Okamoto

加藤ゼミ

降り注ぐ太陽、吹き抜ける風、開放的な非日常を部屋に閉じ込める…“Picnic in the room. ～屋内でピクニック気分を味わう～”をコンセプトに、家具と植物の融合によりピクニック気分を室内でも味わうことができると考えました。





道の駅「美杉」

加藤 圭祐
Keisuke Kato

三井田ゼミ



道の駅に求められるものは地域の魅力を満喫するための入り口としての役割だと考えた。そしてこの地域の魅力は「美しい自然」。よって自然を体感でき、地域をさらに知りたくするような道の駅を提案する。

魅力発見! MAP ファミリーロード

近鉄八尾駅から徒歩3分にある商店街「ファミリーロード」の魅力を発見できるMAP! あたたかい雰囲気が伝わるように手書きで制作しました。

制作: 北村 彩乃
三井田ゼミ



近鉄八尾駅から徒歩3分にある商店街「ファミリーロード」の魅力を発見できるMAP! あたたかい雰囲気が伝わるように手書きで制作しました。



魅力発見 MAP 八尾ファミリーロード

北村 彩乃
Ayano Kitamura

三井田ゼミ

近鉄八尾駅から徒歩3分の立地にある商店街「ファミリーロード」の魅力を発見できるMAP! あたたかい雰囲気が伝わるように手書きで制作しました。



[制作]
■ ■



薔薇の贈物

楠瀬 遥
Haruka Kususe

加藤ゼミ

明るいところ暗いところ、どちらでも美しく、違った印象を魅せる照明器具。
在学中学んできたこととサブワークで使用していた合成樹脂とを掛け合わせた。
両方を取り組んだ自分ならではの薔薇の花束を、お世話になった先生方に贈りたい。



[制作]



KioMall

楠田 明大

Akihiro Kusuda

三井田ゼミ

学生にとってより良い教室・ゼミ室・実習室との関係性の提供、学生と学生の出会いや学生と教員の出会いを生む計画。

各ゼミ室を中心としたクラスター建築（複数の建築物またはその単位ブロックの集合を全体としてデザイン）を軸に設計することを考えている。大通り中心に教室軍が枝分かれている。





オノマトペ絵本

小林 杏佳

Kyoka Kobayashi

加藤ゼミ

オノマトペ すなわち擬音語・擬態語。

日常生活で溢れている動作の音や鳴き声、場の雰囲気や感情などを表すオノマトペ。それを絵本で子どもに教えたい。テレビゲームを楽しむ子供が増えているなか、目・耳・手など子ども自身の感覚で遊べる玩具の3D絵本で子どもの心をつかむ。





[制作]



緑の丘の白亜 図書館

杉森 由佳
Yuka Sugimori

加藤ゼミ

「懐かしさとシンボル感のある外観」として擬洋風建築を用いた高校時代の母校にある明治時代から現存する校舎風の外観のデザインを取り入れました。

また、地下の図書館内のコンセプトとして「広く見やすい館内・光を取り入れる空間」をテーマに現代建築風の直線的なコンクリート造で使いやすさを重視した設計にしました。





折り紙行灯

関本 彩乃
Ayano Sekimoto

加藤ゼミ

現代の和室にあった“和のテイストを持ちながらもモダンな行灯”を、日本の工芸品である和紙を利用し、幼い子どもからお年寄りまで親しみやすく、日本の文化である折り紙で日常使える照明を作った。



[制作]



歩み ～老人コミュニティ道のいえ～

竹歳 直嗣
Naotsugu Taketoshi

三井田ゼミ

老人コミュニティがシェアリングコミュニティとしてコミュニティを利用される年配の方や地域の方が同じ場所や時間・物事の価値観などを共に共有することを目指し年配の方々がこのコミュニティで新しい第二の人生を歩んでいただくことを目的にしています。





永和ひろば

田淵 桃子

Momoko Tabuchi

西山ゼミ

「つくりだす場所」をコンセプトに、この地域の文化・笑顔・輪が生まれる空間をめざした広場。近年、大規模複合型施設が増える中で、あえて近鉄永和駅周辺の土地に合った施設規模で地域に根ざす。永きに渡って、人の和が広がるように。



[制作]



千鳥格子の道

丹波 一志
Kazushi Tanba

加藤ゼミ

一辺 450 mm の千鳥格子からできる正立方体を一つのユニットとし、それを組み合わせていくことで小さな細胞を大きな空間とした。
自由に繋ぎ重ねることのできるユニットによって、仮設的な空間が季節やイベントごとに姿を変える。





揺れる心 ～sakura～

茶谷 千佳
Chika Chatani

村田ゼミ



迷いや葛藤を乗り越え、少しだけ強くなれたこの1年。自分自身の心の変化と1年を通して姿変わりゆく桜の変化を自ら引いた生糸で織り込んだ作品である。迷いつつも前向きに、周りを幸せに包み込める、そんな強い女性でありたいという想いを込めた。



[制作]



妊娠中から産後まで体型の変化に対応する衣装の制作
enjoy maternity dress!!! ~変わりゆく身体~

山本 利薫
Rika Yamamoto

村田ゼミ

妊娠中も妊娠前後にも、その時の体型の変化に合わせて素敵に着用することができるパーティドレスの制作。自分の体型の変化をいろいろな点から分析することによって体型の変化に対応できるドレスに仕上げた。





展望台レストラン

新原 将光
Masamitsu Niihara

三井田ゼミ

入り口のその先には若草山から望む奈良市街の夜景と天井に折り重なる木組みが同時に目に飛び込み奈良の街並をよりいっそう引き立てる。
夜景と木組みが織り成す空間には、言葉など要らない…。





[制作]



藍染の八重奏^{オクテット}

平井 美帆
Miho Hirai

村田ゼミ

綿・絹・葛和紙・ポリエステル二種類・まわた・麻・麻レーヨンの八つの繊維を使い、和のイメージを持つ藍で洋服に挑戦。多種の糸がそれぞれ奏でる藍の色を二つの作品に収めました。





住めば魅家戸

平山 帝都
Miyako Hirayama

三井田ゼミ

畿央大学周辺の住宅地は敷地が広いにも関わらず、それぞれの家が孤立しておりまとまりがない。

そこで道路をすべての家の敷地に侵食させ、またプライベートを確保しつつも門扉や塀を作らないことによって閉鎖的な空間を一切取り除く。

といったことを用いて畿央大学周辺の街の一角を計画地とし、改善を図った。





[制作]



千日前 UNDERGROUND STREAM

福井 子寧

Nene Fukui

藤井ゼミ



大阪上本町～谷町九丁目を繋ぐ地下連絡通路は暗く、薄汚い。
通行量が多いが、この何もなく長いだけの通路を歩くのは不快だ。
そこに川を流し、自然光を呼び込み、草木を植えることによって
地下でありながらも屋外とつながりを持った明るい空間にする。



花を紡ぐ ～花嫁への祝福～

福原 希
Nozomi Fukuhara

村田ゼミ

美しい光沢をみせる生糸。柔らかくあたたかみのあるつむぎ糸。作り方で様々な表情をみせる絹をチュールリップで染め、花嫁の門出を祝う。



[制作]



NEW COOP - 真美ヶ丘生協の新提案 -

堀口 拓樹
Hiroki Horiguchi

加藤ゼミ

毎日の買い物に楽しさやワクワク感を与えられるようなスーパーの存在が必要だと考え、目新しい店舗の外装、内装や実演販売、文化教室を充実させ目や体で体験、参加することができる「参加型スーパーマーケット」を提案し買い物にエンターテインメント性を加えた。





光のパビリオン

松井 美樹
Miki Matsui

加藤ゼミ

建物は環境内に適応することが大切である。
この建物は、ガラスの反射で外側は周りの景色に同化し、環境に適応できるように考えた。



[制作]



琵琶湖に建つ集合別荘

松田 眞子
Mako Matsuda

加藤ゼミ

琵琶湖や比叡山などの自然に囲まれ、非日常を味わえる居住スペースや大津の資源である温泉を取り入れた大浴場で疲れた心や体を癒し、住み続けたいと思える住居を目指しました。建物には、住民同士のコミュニケーションを広げられる憩いの場を設けました。





I LOVE 藍 ～京×琉球～

村上 和也
Kazuya Murakami

村田ゼミ

京と琉球の二つの藍が織り成すコントラスト。
互いが違うが故に互いを引き立たせる。
長く履き続けられるジーンズのための綾織り、四枚綜紬への挑戦。
"I LOVE 藍. I LOVE JEANS."



[制作]



咲き継ぐ花 ～薬師寺花会式の造花に触れる～

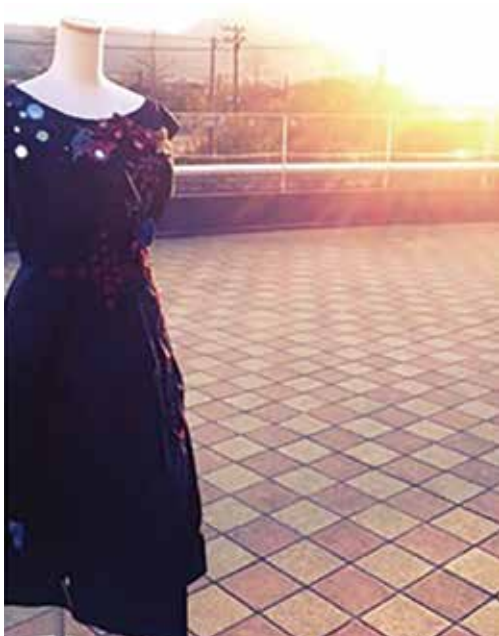
山片 実咲

Misaki Yamagata

村田ゼミ

薬師寺花会式の「造花【つくりばな】」について、
一子相伝で花づくりをおこなう橋本家にて、
見て、聞いて、体感したことを、一冊の冊子にまとめました。
ページを開いて、伝統に触れてみてください。





刺繍に心をよせて

山蔦 真子

Mako Yamatsuta

村田ゼミ

幼いころから心惹かれていた刺繍。

刺繍には長い技術と深い歴史がある。

自分で繭から引いた生糸を使って身を守るミラー刺繍や豪華で華やかな立体刺繍への挑戦。



[制作]



奈良と暮らす

吉成 和真

Kazuma Yoshinari

三井田ゼミ

「奈良町」には、多くの伝統的町家が住まいとして軒を連ねている。しかし、近年空き家が増えている。やがて空き家は壊され、町並みが崩れていく。これを食い止めるには町並み景観を継承する、住まいづくりのルールを確立する必要がある。

そこで奈良町の一画に、町家のイメージを継承する町家カフェを計画し、その奥には、現代の暮らしを支える集合住宅を計画する。





マルチキャリーバッグ

嶋 博也
Hiroya Shima

中山ゼミ

旅の必需品であるキャリーケース。しかし家の中では使い道のない大きな荷物になってしまう。そんなキャリーケースを家の中でも有効に活用できるように考えました。キャリーケース兼イスとしてマルチに使用できます。



[制作]



服部天神駅改修計画

山之内 貴宏

Takahiro Yamanouchi

三井田ゼミ

駅舎には色んな人が来る。通勤の人遊びに来た人、遊びに行く人、それぞれの目的があり駅舎を利用する。この地域の玄関の様な、色んな人にとって暖かみのある駅舎を作りたいと考えました。





論文



暑熱環境における生理反応の個人差 ～女子大学生を対象とした人工気候室実験～

東ゼミ



延原 成穂
Naruho Nobuhara

1. 研究背景・目的

日本の成人女性の半数程度に冷え性といわれる症状が存在し、快適温度には男女差があると報告されている。冷え性には明確な定義はないが、冷え性を訴える女性には、室温の低下に敏感であることや、夏でも寒いと感じることがよくある、夏でも裸足でいるのは寒くてつらいなどの共通の特徴がある¹⁾。そこで本研究では、クールビズ推奨温度である28℃から夏の非冷房環境において想定される暑熱環境における発汗や皮膚温変化などの生理反応および温熱的主観申告の個人差を検討することを目的とし、女子大学生を対象とし人工気候室実験を行い、その反応の特徴を考察した。

2. 実験概要

【被験者】健康な女子大学生11名

(冷え性5名、非冷え性6名)

【実験場所】武庫川女子大学内人工気候室

【測定項目】

測定項目と実験のタイムスケジュールを表1に示す。平均皮膚温はHardy&Dubois 7点法(前額・腹・前腕・手背・大腿・下腿・足背)にて算出し、胸部皮膚温を加えた計8点を温度ロガーLT-8(グラム)により測定した。温冷感(9段階)、快適感(7段階)、室温評価(7段階)、発汗度(9段階)等の主観申告は申告用紙に記入してもらった。

【着衣量】綿スウェット上下(0.5clo)

【実験期間】2015年8月19日～29日

表1 測定項目と実験のタイムスケジュール

時間(分)	-10	0	30	20	30	45	50	60
設定温度	前室28℃		条件1 (32℃) 条件2 (35℃) 条件3 (29℃)					
皮膚温・環境温度	連続測定(30秒毎)							
衣服内湿度	連続測定(30秒毎)							
発汗量	連続測定(1秒毎)							
体温		●						●
心拍数・血圧	●	●			●			●
皮下温	●	●	●	●	●	●	●	●
サーモグラフィ		●			●			●
申告	●	●●	●	●	●	●	●	●

3. 結果および考察

3.1 皮膚温の経時変化

29℃条件における皮膚温変動の一例を図1に示す。前室から入室後10分で軀幹部以外の皮膚温が急激に上昇し、その後安定した。冷え性は下腿皮膚温が他の部位と比較して低く維持され、60分経過後も部位別の皮膚温度の差が大きい。32℃条件でも同様の傾向がみられたが、35℃条件では体質別の顕著な差はなくなった。29℃条件では冷え性の温冷感は涼しい側の申告であったが、非冷え性は温熱的中性申告であった。

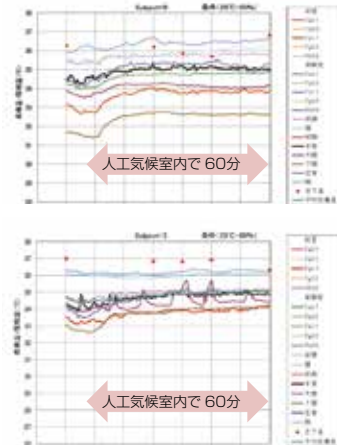


図1 皮膚温変動の一例
29℃条件: 冷え性(上図)と非冷え性(下図)

冷え性と非冷え性に分類し、各温度条件別に10分毎の下腿皮膚温の平均値と偏差を求めた(図2)。29℃条件と32℃条件では冷え性・非冷え性ともに実験室入室後20分で温度が安定しているが、60分経過後でも29℃条件では約1℃、32℃条件では約0.5℃の温度差があった。35℃条件では、体

質による差は小さくなった。29℃条件における入室30分後と60分後のサーモカメラで撮影した画像をみると、冷え性（右側に着席）の下腿皮膚温が低い様子がわかる（図3）。

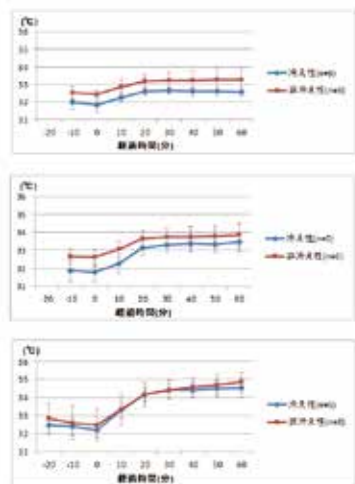


図2 体質別10分毎の下腿皮膚温の経時変化
29℃条件(上)・32℃条件(中)・35℃条件(下)

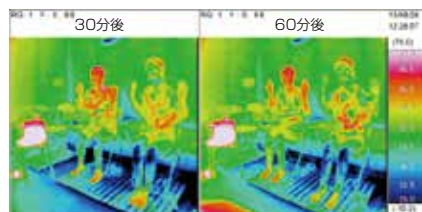


図3 入室30分後・60分後のサーモ画像
29℃条件(左側着席:非冷え性, 右側着席:冷え性)

3.2 発汗量

温度条件による発汗量は、体質に関わらず 35℃条件で一気に増加した（図4）。29℃、32℃条件においては、冷え性の発汗量がやや少ない傾向がみられた。平均皮膚温と発汗量との関係を温度条件別にみると、32℃条件では若干ばらつきがみられるが、35℃条件では非冷え性は平均皮膚温が高く、発汗量が多い傾向があった（図5）。

3.3 主観申告

29℃条件と32℃条件における入室後60分の温冷感と快適感の関係では、冷え性は暑い側の申告時において非冷え性よりやや快適側の申告をする傾向がみられた（図6）。

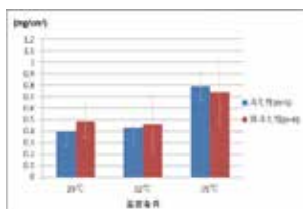


図4 体質別の温度条件ごとの平均発汗量

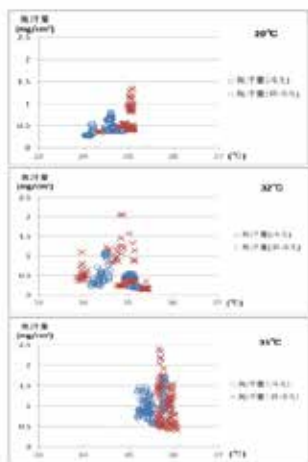


図5 体質別平均皮膚温と発汗量の関係
29℃条件(上)・32℃条件(中)・35℃条件(下)

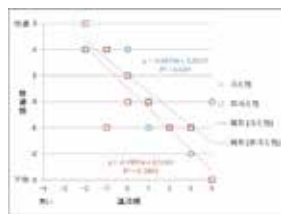


図6 体質別温冷感と快適感の関係

4. まとめ

冷え性はやや暖かい環境下でも下腿皮膚温が低く、発汗量やや少なめで暑くても不快に感じにくい傾向があった。よって足元の温度が低くならないよう環境を整備し、特に膝下の着衣量を増加させることにより、快適性の向上につながると考えられる。

文献

1) Nagashima K, Yodo T, Yagishita T et al: Thermal regulation and comfort during a mild-cold exposure in young Japanese women complaining of unusual coldness. J Appl Physiol 92:1029-1035, 2002

謝辞

実験にご協力下さった被験者の皆様、武庫川女子大学佐々尚美先生に御礼申し上げます。

[論文]



御所市における「金曜カフェ～つどい～」の運営に関する報告

齋藤ゼミ



乾 裕一
Yuichi Inui



志茂 直樹
Naoki Shimo

I 序論

1-1 コミュニティカフェとは

コミュニティカフェは、公益社団法人長寿社会文化協会（WAC）により提案され、「居場所」「カフェ」「たまり場」など様々な名称が含まれている。

私たちは「地域の人が気軽に集える場所」と考えることとする。

1-2 「金曜カフェ」開設の経緯

「金曜カフェ～つどい～」(以下、「金曜カフェ」)は、昨年度のゼミの先輩方が、空き店舗を借りて御所市新地商店街に誕生させた。オープン後は、週に1度、金曜日に開設していた。私たちは2016年2月から、運営を引き継ぐこととなった。

II 足を運んでいただける工夫

コミュニティカフェにイベントは必須ではないが、イベントから「金曜カフェ」に興味を持っていただけるのではないかと考え、イベントを数多く実施している。今年度は昨年度より定例化し、イベントを増やしたことから、昨年度に比べ来客数は増えている。昨年度は、畿央大学からの提供によるイベントが主であったが、今年度から地域の方が主体となるイベントを定期的に開催することとなった。地域の方がおのおのの声を掛け合い、たくさんのイベントを実施することができた。

2-1 うたごえ・似顔絵(第1金曜)

一番人気のイベントであり、他に比べ、男性の方が多く参加している。キーボードは、御所市の住民の方からの寄付である。

参加者から、「1番好きなイベント」「歌

うといつも元気になる」と好評をいただいている。

似顔絵は元美術教員の方によるものである。学生スタッフも描いていただきカフェに飾ってある。

表 2-1 イベント内容・参加数

定例イベント		人数
第1金曜	うたごえ・似顔絵	24
第2金曜	認知症カフェ	○ 16
第3金曜	太極拳	14
あなたも	お琴(4月)	10
1日先生	ゴミ箱スタンプ(5月)	11
	御所音頭・県民音頭(7月)	16
	お琴(7月)	8
	江戸時代の御所町(8月)	21
	御所の歴史(9月)	22
	お灸と シンキングボール演奏(10月)	14
	御所音頭・県民音頭(10月)	16
	かつらぎの歴史を知ろう(11月)	25
	おりがみ(1月)	14

その他イベント		人数
6月5日*	骨密度・下肢筋力測定	16
7月31日	おはなし会	15
8月7日*	マジックショー	○ 16
8日21日*	落語会	19
9月11日*	レクリエーションゲーム	○ 5
9月18日*	SATシステム	○ 6
12月4日*	骨密度・下肢筋力測定	16
12月18日*	ステンシル教室	○ 5
12月25日	クリスマス会	26
1月29日	お別れ会	24
全体平均人数		16

※注：基本的にイベントは午前、午後のイベントは*で表す
定例イベントは平均人数を表す
畿央大学からの提供イベントは○で表す



図 2-1 身振りをつけながら歌唱



図 2-2 似顔絵作成風景



堀田 晃平
Kohei Horita



松田 大雪
Taisetsu Matsuda



山上 華奈
Kana Yamagami

2-2 認知症カフェ (第2金曜日)

唯一大学からの提供イベントである。最初に、認知症について学び、勉強会の後は、絵手紙やレクリエーションなどの頭や身体を動かすことも実施した。11月からは「K i o オレンジカフェ 分かちあいin御所」とし、午前中は勉強会を行い、オレンジリングを配布。午後からは本来の認知症カフェ、すなわち認知症の方、および介護をされている家族の方を対象とした集いの場にリニューアルした。



図 2-3 山崎先生の講話を聞く



図 2-4 絵手紙作成

2-3 太極拳 (第3金曜日)

毎回初めはストレッチをし、みんなで声を出しながら初級編を教えていただく。全身を使う運動になるので、参加する方はわりと元気な方である。月1回軽い運動ができて良いというお声をいただく。



図 2-5 太極拳初級編



図 2-6 学生も太極拳に挑戦

2-4 あなたも1日先生

住民の方が講師となる企画である。次々と手をあげてくださり、予定はぎっしりである。この企画を始めたことで、イベント内容の幅ができ、初めての方が多く来てくださるようになった。特に御所市の歴史に関するイベント内容の回は、多くの方の参加がみられた。



図 2-7 お花を持って踊る様子



図 2-8 お琴の説明を聞く

2-5 その他イベント

定例イベント以外にも、さまざまなイベントを実施した。



図 2-9 骨密度・下枝筋力測定
PT・OTのボランティアさんと
学生で測定、結果報告を行う



図 2-10 おはなし会
紙芝居・歌遊び



図 2-11 マジック
畿央大学の学生によるもので
夏休みには子供の参加もあった



図 2-12 SATシステム
栄養学科の生徒が測定・結果報告
食生活見直しのきっかけとなった





図 2-13 落語会
1周年記念イベント。3人のプロ
の落語家さんの断を楽しんだ



図 2-14 クリスマス会
ハンドベル演奏・お琴演奏・映画鑑賞
多くのクリスマスソングを聴いた



図 2-15 ステンシル教室
デザイン学科村田ゼミ生と一緒に
好きな柄でコースターを作製



図 2-16 お別れ会
1年間の感謝をこめて
みんなで贈る言葉を合唱

2-6 スタンプカードの実施

昨年に引き続きスタンプカードを作成し、配布した。1回来ていただくと、ハンコを1つ押し、5つ貯まると景品と交換できるシステムである。

景品は、当初こちらで準備していたが、足りなくなり困っていたところ、「これを景品に。」と多くの方が品物を持ってきて下さるようになった。



図 2-17 スタンプカード



図 2-18 現在の景品の数々

Ⅲ つどいの場としての空間づくり

3-1 照明カバーの制作

昨年の床と壁の改装に続き、照明カバーの制作にとりかかった。

1. 現状より照明の光を柔らかくする
 2. 現状のLED電光を活かす
- この2点を考慮した結果、ワーロン紙とひのき棒を用いた和風のデザインに決定した。



図 3-1 カフェの内装



図 3-2 作業風景



図 3-3 完成した照明 12 台の
取り付けが完了した



図 3-4 取り付け後の雰囲気
取り付けが完了した

光がむき出しだった照明がシェードを取り付けることによりやさしい光になり、内観にもマッチして落ちてくると好評をいただいた。

現地での取り付けは試行錯誤しながらの作業であったため計画していた作業ができず、やり直し部分も多くて完成まで時間がかかってしまった。

3-2 ショーウィンドウ計画

昨年からの課題であった、ふたつのショーウィンドウを改装した。

床のカーペットが、汚いので、市販のマットを購入し、敷き詰めた。



図 3-5 マット敷き詰め前



図 3-6 マット敷き詰め後

壁は、汚れが目立つ古い壁紙の上から、新しい壁紙を重ね貼りすることにした。

次に、棚を製作した。ショーウィンドウの、大きいほうは、すのこを利用した横長の棚を、小さいほうは、雛壇型のデザインとした。すのこを利用して、棚の耐久性を保ちつつ、軽量化を図った。

材料は、ホワイトウッドとした。
カフェのオーナー・お客さんに喜んでもらっている。

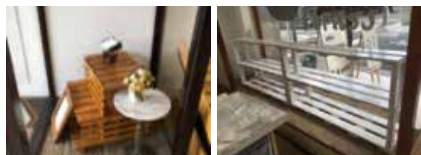


図 3-7 棚設置後 中から

図 3-8 棚設置後 中から

IV 利用者へのアンケート調査

2015年8月21日から11月末日に、「金曜カフェ」に来られた方々に、アンケート調査をお願いした（同じ方に複数回の調査はしていない）。

全回答者は63名でその属性を表4-1に示す。

対人交流の様態を世帯構成別にみると（図4-1・2）一人暮らしの方は、他の世帯よりも「電話やメール」「世間話をする」等の日常的な交流が低いことが理解できる。

表 4-1 調査対象者の属性

	属性	人数	割合
性別	男性	15人	21%
	女性	48人	69%
年齢	64歳以下	11人	18%
	65歳～74歳	25人	32%
	75歳以上	26人	39%
	不明	1人	1%
世帯構成	一人暮らし	13人	19%
	夫婦	24人	32%
	単独世帯	9人	11%
	大家族	17人	24%



図 4-1 電話やメールをし合う友人

図 4-2 世間話をする友人



図 4-3 「金曜カフェ」に来る目的（複数回答）

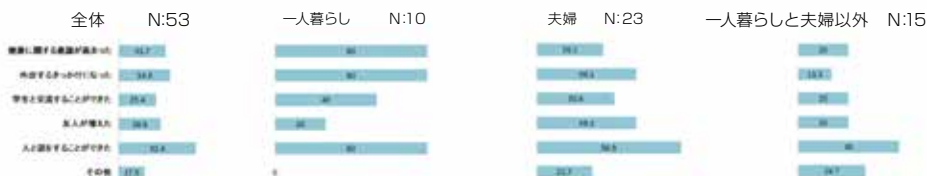


図 4-4 「金曜カフェ」に来てよかったこと（複数回答）一人暮らしと夫婦は、65歳以上の方を抽出している。



夏期における 大学生の生活習慣の実態

東ゼミ



大畑 良貴
Yoshiki Obata

柴田 裕人
Hiroto Shibata

西浦 康介
Kohsuke Nishiura

1. はじめに

近年、生活習慣病は成人期以降の世代のみならず低年齢層においても報告されている。そこで本研究では、生活が不規則になりがちな大学生を対象として、夏期における温熱環境、睡眠、活動量、水分・食事摂取に着目した生活習慣の実態を調査し、問題点を明らかにすることとした。

2. 調査概要

2.1 調査項目・方法

1) 温熱環境・生理量

人体周囲・衣服内温湿度（エスペック RS-13）
皮膚温度（胸・腕・大腿・下腿）（エスペック RT13）

（2分間隔で自動計測）

舌下温（テルモ C531）

体組成（タニタ MC-190）

日常生活アンケート（居場所・生活行動・環境調節等）、温熱的主観申告、着衣量

2) 活動量

多機能万歩計（エステラ FS-750）

（2分間隔で自動計測）

3) 睡眠

OSA 睡眠調査表 MA 版¹⁾

睡眠時体位・体動回数（エステラ FS-750）

4) 日常生活アンケート

自記式アンケート調査を留置法により実施

主な調査項目：体質・食習慣・飲水意識・冷房機器使用状況・だるさや疲労感の有無等

5) 水分・食事摂取

水分を摂取した時間・種類・量：記録用紙に記入

食事：定規とともにスマートフォンで撮影した画像から、内容と量を把握し、食事に含まれる水分量を算出

2.2 被験者

調査 1) 2) 3)：健康な男子大学生 10 名
調査 4) 5)：上記に 10 名を加えた 20 名
調査中は普段通りの生活をしてもらった。

2.3 調査時期

2015 年 8 月 測定は連続した 3 日間とした。

3. 結果と考察

3.1 温熱環境

一日の人体周囲温度の平均値は 26-31℃、睡眠時は 24℃-32℃（欠測除く）で、睡眠時に個人差が大きく、2 名は寝室の住宅熱環境評価基準値²⁾より高温で就寝していた（図 1）。エアコンの使用状況と設定温度の影響が大きいと考えられた。周囲温度と温冷感申告の関係では、29℃で温熱的中性申告となり、その時の平均皮膚温は 34℃であった。周囲温度と室温評価と関係では、27℃付近でこのままで良いと評価していた。温冷感と快適感の関係を見ると、どちらでもない～やや涼しい環境を快適と評価していた（図 2）。



図 1 睡眠時の平均周囲温度・偏差・最高最低値

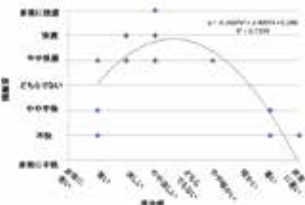


図 2 温冷感と快適感の関係

3.2 活動量

一般的に成人男性の一日の平均歩数は8000歩、目標は10000歩といわれるが、No.2以外の被験者は歩数が非常に少なかった。運動強度を分析したところ、歩行程度に留まり、速歩以上のレベルはほとんどなく、今回の被験者は運動が不足していた(図3)。

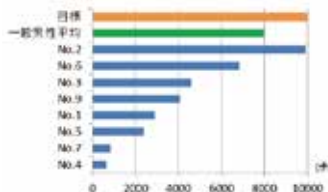


図3 一日の歩数 (No.8,10は欠測)

3.3 睡眠

OSA 合計得点が2日間ともに標準点250点を上回る被験者はNo.1とNo.5のみで、全体的に睡眠の質は良くない結果であった(図4)。睡眠時間と総合得点との関係を検討すると、睡眠時間が長いほど得点は高くなるが、その傾向は特に6時間未満の場合に顕著であった(図5)。また得点の高い被験者には就寝時刻が一定という共通点があった。



図4 OSA 合計得点 (No.8,10は欠測)

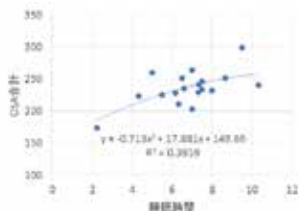


図5 睡眠時間と OSA 合計得点の関係

3.4 水分・食事摂取

一日当たりの成人の体外に出る水分は、排尿・便で1600ml、不感蒸泄で900mlであるため、体内に取り込む水分量として、1200mlの飲水、1000mlの食物中の水分、

300mlの代謝水でバランスが維持される。食事に含まれる水分量は、撮影された画像から一品ずつリストを作成し、URLを参考³⁾に算出した(図6)。水分は概ね1200mlを摂取できていたが、食物からの1000mlは大半が不足する結果であった。今回は水分量のみを分析対象としたが、栄養バランスや摂取カロリー等の問題もあると考えられた。

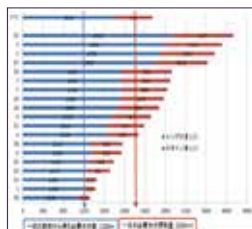


図6 飲水と食事による総水分摂取量

4. 調査項目の関係

室内で過ごす時間の長い被験者は、平均周囲温度が高いと歩数がやや少ない傾向があった。睡眠の質と就寝開始時、就寝時平均、起床前の温度の関係を検討したが、明確な関連性はみられなかった。活動量と睡眠の質との関係には正の相関があると予測したが、全体的に活動量が少なく関連性は確認できなかった。しかし、就寝前にコーヒーを飲んだ被験者は入眠と睡眠維持、OSA 合計得点ともに低く、就寝直前のカフェイン摂取が睡眠に影響したと考えられた。また、最も高温環境で生活していた被験者の総水分摂取量が不足していたことから、夏期においては発汗によって失われる水分の意識的な補給の重要性が指摘できる。

5. まとめ

夏期における男子大学生の生活習慣の実態を調査した結果、運動および睡眠時間の不足が問題であった。また、飲水による水分補給に比べて食事からの水分摂取量が少なく、改善が望まれる。

文献

- 1) 山本、田中、高瀬、山崎、阿住、白川：中高年・高齢者を対象とした OSA 睡眠感調査票 (MA 版) の開発と標準化。脳と精神の医学 10:401-409, 1999
- 2) 住宅熱環境評価基準値。高齢者生活熱環境研究会, 1991
- 3) カロリー Slism <http://calorie.slism.jp/>
謝辞：調査にご協力頂いた被験者の皆様に御礼申し上げます。



香りやにおいに関する研究 ～大学生のにおい評価における 個人差と季節差～

東ゼミ



榮 南海 田中 佐右妃 荻原 邦彦
Minami Sakae Sayuki Tanaka Kunihiko Ogihara

1. 研究背景と目的

近年、香りを付加した生活が日常化されており、企業による香りのブランディングも行われている。しかし一方で、香害が社会問題として顕在化しており、全国の消費生活センターに寄せられる柔軟剤の香りによる体調不良等の相談件数の増加が報告されており、においの感受性には個人差があることがわかる。

そこで本研究では、個人差の生得的要因として性差に、後天的要因として喫煙習慣の有無に着目し、においに対する意識、嗅覚閾値、季節や気分状態とにおい評価の関係を考察することを目的とした。

2. 調査概要

1) 意識調査

被験者のにおいに対する意識を自記式質問紙調査により確認した。主な調査内容は以下の通りである。

- ・個人属性、アレルギーの有無
- ・においや香りに敏感かどうか
- ・においが気になるか(自分, 他人)
- ・心地よいと感じるにおい環境
- ・きれい好きかどうか(自己評価, 他己評価)
- ・喫煙の有無、頻度、周囲の喫煙状況 等

2) 嗅覚検査

5基準臭セット(第一薬品産業製)を用い、5-2法(5枚の中から2枚のにおいの付いた紙を選ぶ)により、基準臭A→B→C→D→Eの順で低い濃度より提示し、検知閾値



写真1 嗅覚検査の様子
(手前が被験者・奥が験者)

(においがあるかわかる)、認知閾値(においの種類がわかる)を測定した。

3) 気分状態の季節差

POMS2成人用短縮版(金子書房)を用い、35項の質問の結果をT得点(標準化得点)に換算した。

4) におい評価の個人差と季節差

先行研究¹⁾を参考に選定した18形容詞対7段階評定によるSD法を用いた。6種類(グレープフルーツ、ひのき、ローズマリー、ペパーミント、イランイラン、ゼラニウム)の精油を、においの種類は提示せず、順番は指定せずに1つずつにおいを嗅ぎ、評価してもらった。中和刺激にはコーヒー臭を用いた。

【被験者】

喫煙男性10名、男性(非喫煙)10名、女性(非喫煙)10名、合計30名の健康な大学生とした。年齢は19歳から22歳である。

【調査時期】

2015年9月10日～9月17日(夏季)
2015年12月15日～12月24日(冬季)

3. 結果および考察

3.1 意識調査

自分や他人のにおいが気になる人は、全体の6割以上を占めた。心地よいにおい環境は、「香りを付加した生活」「日常的な生活臭のある生活」「無臭」に分かれ、好みの個人差が確認された(図1)。香りやにおいへの敏感さの自己評価は、非喫煙者は喫煙者より香りやにおいやや敏感な傾向があった(図2)。



図1 心地よいと感じるにおい環境



図2 香りやにおいに対する意識（喫煙習慣の有無）

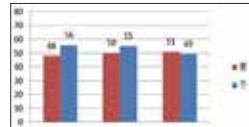


図6 季節別T得点 * p < 0.05

3.2 嗅覚検査

5基準臭の認知閾値の平均値は検知閾値より全体的約1段階高く、喫煙男性、男性、女性においてもほぼ同様の関係がみられた(図3)。基準臭E(糞臭)の閾値は他の基準臭より約1段階低いが、喫煙男性の認知閾値はやや高く、悪臭に対する感度が有意に(p<0.05)低い傾向があった。

綺麗好きと言われるかどうかによる違いをみると、検知閾値に差はないが、綺麗好きと言われる人の認知閾値の平均は言われない人より基準臭Bを除き、約1段階低かった(図4)。自分をきれい好きと思うかどうかでは差がみられず、他者による客観的評価で差がみられ、興味深い結果であった。

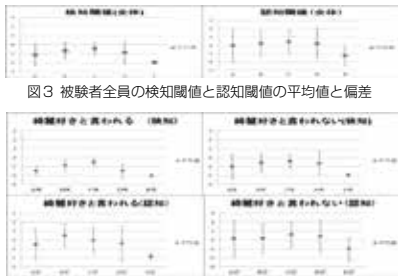


図3 被験者全員の検知閾値と認知閾値の平均値と偏差

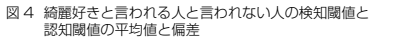


図4 綺麗好きと言われる人と言われない人の検知閾値と認知閾値の平均値と偏差

3.3 気分状態の季節差

におい評価は気分状態による影響を受けるといわれているため、POMS2成人用短縮版を用い、季節差を確認した。T得点は40~59点が平均的なレベルで、得点が高いほどネガティブな気分状態である。喫煙男性のT得点が冬季に有意に高いが、平均的なレベル内での変化に収まり、今回の被験者は、におい評価の季節差を検討するうえで気分状態の影響は無視できると判断した(図6)。

3.4 におい評価の個人差と季節差

一例としてイランイランのSD法による平均値プロフィールをみると、喫煙習慣による評価に違いはないが、性差では5形容詞対に有意差があった(図7)。全ての精油において性差、喫煙習慣の有無、季節差を検討した結果を表1にまとめる。

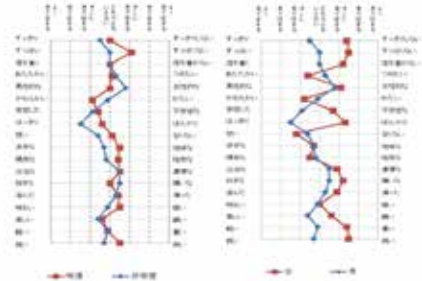


図7 平均値プロフィールの一例（イランイラン）

表1 18形容詞対で有意差があった数による分類

	グループ差		季節差	
	喫煙者	非喫煙者	男性	女性
グループグループ	○	○	×	×
ひびき	△	△	×	×
ローズサワー	×	×	△	△
ペパーミント	△	△	×	×
イランイラン	×	○	×	×
ゼラニウム	△	△	×	○

×：有意差なし
△：有意差が2つ以下
○：有意差が3つ以上

4. まとめ

大学生を対象として、においに対する意識や好み、においの感度、評価やその季節差に性差や喫煙習慣、きれい好きか否か等の個人差の影響を調査した。その結果、生活環境のにおいの使い方を考える上で参考となるデータを示すことができたと考えます。

文献

1) 岩田忠之、齋藤美穂：香りの分類における心理学的検討—SD法を用いた印象による香りの分類—, 日本感性工学会論文誌, Vol.13, No.5, pp.591-601 (2014)

謝辞

本研究にご協力頂いた被験者の皆様に御礼申し上げます。

日本の住まいの知恵に関する一考察 ～今井町 Y 邸の事例と 雑誌掲載作品による～

東ゼミ



奥村 麻由
Mayu Okumura



呉竹 佑麻
Yuma Kuretake

1 はじめに

国民生活に関する世論調査(平成24年)によると、「物質的にある程度豊かになったのでこれからは心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい」という割合が63.1%、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」が31.0%であった¹⁾。住まいの豊かさとは何なのかを考えているなか、橿原市今井町の重要伝統的建造物群保存地区内で改修工事をされた1件の町家(Y邸)において、ヒアリング・環境測定を行う機会を得た。そこで本研究では事例調査を通して考察することとした。

2 調査概要

2.1 調査内容・方法

1) 橿原市今井町の町並み調査およびY邸のヒアリング調査

2) 文献調査

建築雑誌増刊「作品選集」2010～2015に掲載された作品から住宅のみを選定し、リストアップした。参考文献²⁾において住まいづくりの目的として掲げられた「人と人との関係を守り育てる」「日々の暮らしを楽しむ」「心地よく環境にやさしい生活を支える」「外的環境から建物を保護する」に寄与する建物の形式、材料・構法、空間構成などの36要素のうち、建物配置を除く35要素の有無を確認し、データベース化した。

3) 今井町Y邸の温熱環境実測調査

サーモレコーダーを対象住宅の11箇所を設置し、温度・相対湿度を15分間隔で自動計

測した。設置箇所は、外気温湿度(軒下)、玄関・居間(床温度、床上10cm・60cm・110cm・160cm・210cm;相対湿度・放射温度、床上60cm) 和室・トイレ・寝室・つし2階・離れ1階・離れ2F温湿度(床上60cm)、台所・洗面所温湿度(床上110cm)とした。

2.2 調査時期

町並み・ヒアリング調査:2015年12月
温熱環境測定:2015年10月～12月

3 調査結果

3.1 今井町の町並み・Y邸ヒアリング調査

町並み調査では、非常に整備されている町並みや住宅を見て、我々は感銘を受けた。飲食店や郵便局の意匠も町並みに融合するように計画されていた。

Y邸におけるヒアリングで今井町の良さをお聞きすると、ご近所同士が協力し合うなかでの安心感をあげられた。以前、火事が起きた際、ご近所同士が協力し合って救出に成功した話も聞かせてくださった。また、徒歩圏に日常生活で必要となる施設等が揃い、最寄り駅まで10分程度という利便性の高さも住み続けるうえで重要な要素であった。総じて住み心地の満足度は高く、代々受け継がれてきた絶妙なバランスのコミュニティが息づいていることを知った。



また、調査中に目にしたが用途がわからなかった駒

写真1 駒つなぎ馬は低い位置に、牛は高い位置に繋ぐとおとなしくなると言われており、金具がついている高さは様々であった。

つなぎ(昔、馬や牛を繋いでいた金具)や木製の窓(灯籠や灯りを入れるために使用)など教えて頂き、今井町の歴史的な景観にはこのような建築要素も影響していると感じた。

3.2 文献調査

調査した雑誌から、116件の住宅作品を抽出した。建築地は東京都が最も多く27件、次いで千葉県、広島県で、延べ床面積は120㎡未満が51件、120-160㎡が26件、160㎡以上が39件であった。

雑誌に掲載された写真と平面図、ホームページ等の情報で確認できる範囲で35の建築要素の有無を調査したという制約上、実際に存在する要素の全てを確認できたとはいえないが、玄関、板の間、高窓、吹き抜け、勾配屋根、自然素材・地域素材が多く確認できた。これらの各要素は、参考文献²⁾のなかで住まいづくりの目的への影響度により4段階に分類されていた。そこで、各要素の分布状況と把握し、住まいづくりの目標における到達度をみるため、確認された要素に1倍、2倍、3倍、4倍を乗じて得点化を試みた。雑誌掲載作品116件と今井町Y邸の集計結果を表1に示す。雑誌掲載作品の到達度は20%前後であるのに対し、Y邸は確認された建築要素数も多く、到達度も80%前後と高かった。

全体で比較するとこのような結果であったが、建築作品のなかには現代的な建物であっても建築要素が多く採用されている事例や、35要素以外の魅力的な建築要素の存在も確認でき、豊かに暮らすための様々な工夫を知ることができた。

表1 現在の住宅の住まいの目標像に対して重視されている分布

	要素	人口増加 中高層		人口減少 低層		人口減少 中高層		人口減少 低層	
		人口増加 中高層	人口減少 低層	人口減少 中高層	人口減少 低層	人口増加 中高層	人口減少 低層	人口減少 中高層	人口減少 低層
建築要素	確認された	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	確認されて いない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
Y邸	確認された	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	確認されて いない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

3.3 今井町Y邸の温熱環境実測調査

測定期間中で最も低温であった12月の居間における温熱環境の経時変動をみると、外気の最低気温が5℃程度であっても、室内の気温が15℃を下回ることにはなかった(図1)。改修工事による断熱・気密性の向上と床暖房の効果により、垂直温度分布の小さい均一な温熱環境が維持されていた。昔ながらの町家では、冬の寒さが問題であったが、水回り空間も暖かく維持されており、温熱的快適性は向上していた。12月の外気温と居間(母屋)および離れ2Fの室温との関係では、居間のほうが高温に保たれ、変動が小さかった。離れでは暖房にファンヒーターを使用しているため、時折かなり高温になっていた(図2)。

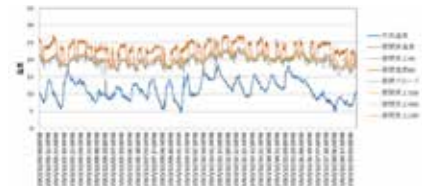


図1 外気および居間の各測定点の経時変動(12月)

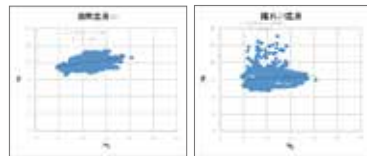


図2 外気温度と居間・離れ2F温度との関係(12月)

4. おわりに

本研究を始めるまでは快適＝豊かと考えていた我々だが、今回実際に足を運び、今井町の住まいを非常に豊かだと感じた。近隣同士のコミュニティの存在、協力し合って生活をする文化、これからの住まいに豊かさを求めるとき、参考になるモデルのひとつと考えられた。

文献

- 1) 内閣府国民生活に関する世論調査。
<http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-life/2-2.html>
 - 2) 今に生きる日本の住まいの知恵 わが国の気候・風土・文化に根ざした。現代に相應しい住まいづくりに向けて、日本の住まいの知恵に関する検討調査委員会、2014
- 謝辞：本研究にご協力頂いたY邸の皆様には厚く御礼申し上げます。

介護福祉施設における 介護ユニフォームに関する研究 —視覚効果を中心に—

李ゼミ



田中 佑弥
Yuya Tanaka



中川 慧太
Keita Nakagawa

1. はじめに

1994年から始まった日本の高齢社会、2013年には総人口に占める高齢者の割合は約26%の「超高齢社会」となった。さらに、核家族、少子化などの社会的変化により今後、老人福祉施設の増加が予想される。その中で介護環境を考える際、施設スタッフの増加に伴い、多種多様なスタッフのユニフォームも考慮すべき要素の一つでもある。現在、老人福祉施設の介護ユニフォームとして用いられている着衣は医療用ユニフォームとは異なり、各施設の方針により選択されていることから、決まりのない介護ユニフォームに着目し、より良い日常生活を送るためのサポートに適する、いわゆる望ましい介護ユニフォームを提案することを最終目的とする。本研究では、老人福祉施設の中でも養護老人ホーム、特別養護老人ホームの現場で働いているスタッフ、および老人福祉施設に対しイメージのみを持っている被験者を対象とし、色と形について、とりわけトップスに対する視覚効果を中心に検討を行った。

2. 調査および被験者評価

1) 電話によるヒアリング調査

老人福祉施設のユニフォームの有無、形、色採用の方針・規定、指定の無い場合の多く着用されている形態について調査するために、大阪府、奈良県の老人福祉施設（老人ホーム）150施設に対して電話によるヒアリング調査を行った結果、ユニフォームの指定あり：80施設、指定なし：26施設であった。指定ユニフォームは、ポロシャツ（72施設）、

Tシャツ（8施設）、エプロン（2施設）、スクラブ（1施設）、襟付きシャツ（1施設）、その他（1施設）であった。使用されている色は、青（紺含む）>ピンク（サーモンピンク含む）>白>水>緑>黄>黄緑>赤>オレンジ>黒>ベージュ>グレー>紫>茶の順に使用率が高かった。

2) パネル試料によるヒアリング調査

電話によるヒアリング調査を基に、使用が限定的であったエプロンを除き、ポロシャツ、Tシャツ、襟付きシャツ、スクラブを用いて計9種類のユニフォーム試料を作成した。その中から「介護ユニフォームに望ましいと思う形態」を番号で2種類選択してもらった。最も多く選ばれた形態は「ボタン式ポケットありポロシャツ」であり、次に「ポケットありスクラブ」と「チャック式ポケットありポロシャツ」であった。

3) 一対比較実験と絶対評価

①回答率の高かった6種類（図1）のユニフォームを用いて「左に比べて右をどう感じるか」右について表1に示した評価尺度に対して「非常にーややーどちらでもないーややー非常に」の5段階で評価してもらった。②全試料に対する「介護ユニフォームとしての評価」を1つのユニフォームごとに10点満点で評価をしてもらった。

ヤードスティック（Y）信頼区間に基づき判定した結果から3つの絶対評価の詳細を図2に示し、また、絶対評価による得点を図3に示す。いずれの評価項目についても、試料⑤と試料②の評価が高く近似しており、試料⑥の評価が低いことである。



図1 6種類のユニフォーム試料

表1 一対比較法に用いた評価尺度

親しみにくいー親しみやすい	落ち着かないー落ち着く
かたいーやわらかい	値段できないー値段できる
動きにくいー動きやすい	私的なー正装な
嫌いー好き	介護服に向かないー介護服に向く

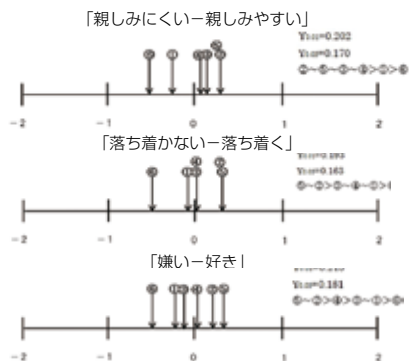


図2 主効果評定値の尺度図

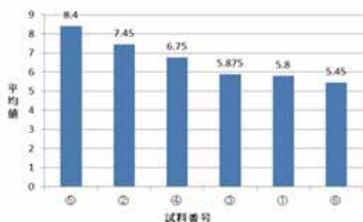


図3 絶対評価の平均得点

4) 異なる3パターンのユニフォームに対する32色による被験者評価

図1を用いた《感性評価実験》の結果から、評価の高かった試料⑤・②、及び規定の医療用ユニフォームとの比較のために、最も評価の低かった試料⑥を用い、ヒアリング調査で使用率の高かった12色を明度・彩度を三段階に揃えた全32色を着色して試料とした(図4)。介護ユニフォームとして望ましいと思

うもの全てに○印で記してもらった評価実験を行った。その結果、試料⑥の3種類ともに評価されたのは白(W)であった。一方、65歳以上の人は白(W)をあまり評価せず、サーモンピンクを最も評価した。評価の高かった色は同系色でも明度(L*)の高い色の方が評価されている結果になった。



図4 異なる3パターンの32色ユニフォーム(試料⑤の例)

3. 結論

被験者は、試料⑤(ボタン式ポケットありポロシャツ)のような「親しみやすさ」、「落ち着き」を感じる形の物を介護ユニフォームとして望ましいと評価していると考えられる。介護ユニフォームの色について、最も選ばれた色は白であったが、65歳以上の高齢者は白を評価せず、サーモンピンクを最も評価していた。白は、清潔感や医療、介護というイメージを持ちやすく、65歳未満の人や非スタッフでは、介護ユニフォームの色として望ましいと評価されたのではないかと考えられる。一方、65歳以上の高齢者は病院のような具体的な医療のイメージを持ちやすく、介護ユニフォームの色として望ましいと評価していないのではないかと考えられる。しかし、全体的に白、サーモンピンク、黄緑、ベージュ、青などの評価が高く、同系色でも、明度の高い色の評価が高い結果となった。



冒険遊び場の実践報告

齋藤ゼミ



鶴田 智昭
Tomoaki Tsuruta



渡邊 大暉
Taiki Watanabe

I はじめに

畿央大学冒険遊び場（以下、「遊び場」）は、2011年齋藤ゼミ第6期生たちによって始められた。以来5年、毎月1回第二グラウンドで開催している。私たちは、昨年度3回生時からかわることになった。

冒険遊び場とは、「自分の責任で自由に遊ぶ」ことをモットーとする遊び場のことである。

II 「遊び場」の登録状況

今年度の登録児数は111名で、昨年度61名に比べ倍増している。男女の構成比はおおよそ半々と変わらない。

学生プレイリーダーは、昨年の32名に比べ、今年度は50名に増加している。もっとも多いのは、教育学部の1回生で、毎年同様の傾向を示している。

III 毎月の参加状況

冒険遊び場は、遊び内容等、本来は定めない。しかし、香芝市から放課後子ども教室の認定を受けた関係で表1のように決定している。

表1 2年間の遊び内容と参加状況

年	月の	遊び内容		子ども	学生数	
		実施	参加			
2014	4月	煙火作り大会	24	0		
	5月	芋の煮つけ・いっしょのぼり作り	13	13		
	6月	水遊び	49	11		
	7月	流しそめん	32	18		
	8月	豆焼く大会	83	0		
	9月	水遊び	31	0		
	10月	スライム作り・ゲーム	25	4		
	11月	アリスマスタリー作り	31	7		
	12月	焼き芋大会	31	3		
	2015	1月	餅つき	29	5	
			餅つき	24	42	
		焼き芋	24	52		
2015	4月	煙火作り	24	6		
	5月	芋の煮つけ 運動会	39	21		
	6月	流しそめん・スライム作り	59	13		
	7月	流しそめん・水遊び	33	18		
	8月	豆焼く大会	82	50		
	9月	水遊び	41	12		
	10月	ダンボールハウス作り	22	18		
	11月	焼き芋大会	31	12		
	12月	アリスマスタリー作り 運動会	44	3		
	2016	1月	餅つき 運動会	42	6	
			餅つき	42	59	

- *1 香芝市青少年野外活動センターで日帰りキャンプを予定していたが、台風の影響により、各家庭に中止の連絡をした。
- *2 一日お泊りキャンプを予定していたが、参加人数が多くなり、寝床の確保が難しいと考えたため、日帰りキャンプに変更した。

2015年の参加数は、累計で438人であり、昨年度より倍増している。

IV 「遊び場」の遊び内容



4月 前日の大雨で畑に水溜り。裸足になって入ったり、鍬で畑を耕したり、ドロドロになりながら畑を耕した。



5月 畑に50本の苗を植えた。「大きくなれ！」と思いを入れて優しく土をかけた。秋の焼き芋大会が待ち遠しい！



6月 スライム作り以外にも、外が晴れていたので、水遊びをした。遊んだ後は、少し肌寒かったので、風邪には要注意！！



7月 流しそめんを初体験！流れてくるそめんを手早く取るかな？そめんは、冷たくてとても美味しかった！



8月 ダンボールハウス作りや水遊び、焼きそば作りなどをした。最後にはみんなで花火をした。花火が近くで大興奮！！



9月 天気が良くて水遊びをした。ルールなしの水の掛け合いをして、びしょびしょに濡れたけど、涼しくて気持ちよかった！



10月 初めてバルーンアートをした。風船を使って、可愛いイヌやキリンなどをプレイリーダーと一緒に作って遊んだよ！



11月 大きく育った芋が畑からたくさん出てきて楽しかった。できたての焼き芋は、ホクホクでとても美味しかった！



12月 手作りのクリスマスツリーに、色紙で折ったサンタクローズやリースを綺麗に飾り付けた。最後には、ツリーの前から集合写真を撮った。

1月 「遊び場」で過ごして楽しかったことを紙に書き、横造紙に貼り付けた。「春からも来られたらいいから、ツリーの前からまたやってください」という声が多くて嬉しかった。

V アンケート調査の結果と考察

「遊び場」への参加動機や感想を把握するため、アンケート調査を実施した。総数は72世帯、回収数は、保護者42人で回収率58.3%、子どもは回収数54人で回収率53%である。

表2 アンケート調査回答者の属性

	人数	割合
小学校年	高学年が主体	18人 40%
	低学年が主体	23人 48%
	その他	9人 18%
性別	男性	29人 68%
	女性	21人 48%
	不明	4人 7.6%
学年別	低学年	22人 40.7%
	中学年	15人 27.8%
	高学年	19人 35.4%
	不明	4人 7.6%
家族形態	専業主婦	40人 94.1%
	専業主夫	2人 5.6%
	その他	3人 7.6%
参加年数	2年目以上	12人 28%

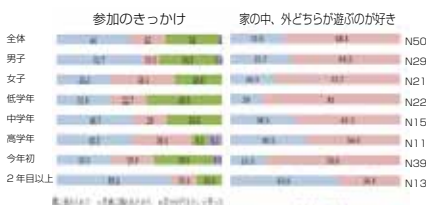


図1 性別、学年別からみた「参加のきっかけ」

子どもの調査回答者の属性を表2に示す。参加のきっかけは、男子では「親に勧められて」が51.7%と女子の33.3%に比べて18ポイントも高い。学年別では、低学年よりも中、高学年に「親に勧められて」の割合が高い。「遊び場」への参加年数別では、2年目以上の子どもたちは「親に勧められて」の参加が90%近くを占めている。

「家の中と外では遊ぶのはどちらが好きですか」の問いに「家の中」と答えた割合は、男子35.7%、女子26.3%と男子の方が多い。学年別では、学年が上がるにつれて「家の中」と答えた割合が高くなっている(図1)

次に保護者の調査の結果を見ることとする。



図2 「遊び場」への参加理由(複数回答)

「遊び場への参加理由」は、全体では、「子どもが興味を持ったから」が66.7%を占める。男の子の保護者は「思いっきり外遊びをしてほしいから」が69%と高く、女の子の保護者より50ポイントも多い。

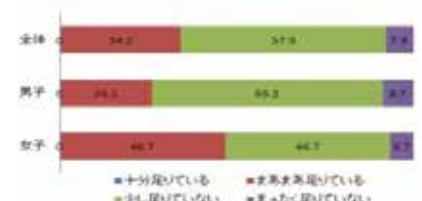


図3 地域の遊び場は足りてるか N39

地域の遊び場の状態については「十分足りている」と答えた保護者はいない。特に男の子の保護者は「少し足りていない」が過半数以上を占め女の子の保護者よりも、地域の遊び場への満足度は低い。

VI まとめ

以上の結果から、男子の方が女子よりも家の中で遊ぶことの方を好み、そのことを心配する保護者が「遊び場」への参加を子どもに進めているのではないかと推測される。畿央大学の周辺は、公園は比較的多い方だが、保護者の自由記述をみると◆公園は死角が多く子どもだけでは遊べない◆家の前でボール遊びをしていたら怒られる。公園でも怒られる等、安全な遊び場は少なく遊び内容の制約もあり、「遊び場」では思いっきり外遊びをしてほしいという保護者の切実な願いが感じられる。月に一度のみの開催であるものの「子どもにも貴重な体験をさせることができた」という言葉をいただいた。

先輩の代から始まり、「遊び場」も5年目になったが、2016年1月9日をもって、最後の開催となった。



大学生を対象とした畳部屋の調査 ～住まいにおける畳空間の利用実態及びその認識による 今後の畳部屋の使われ方の検討～

西山ゼミ



西本 ゆきこ
Yukiko Nishimoto

1. はじめに

畳は世界に類がない日本固有の文化で、日本の住生活には切り離すことのできない床材である。しかし10余年前より、若年層の畳に対する愛着性や必要性が明らかに薄らぎ、畳離れが進行しているとされている。

本研究では、大学生を対象に、現代の若者の畳部屋に対する意識や住まいの実態を知り、今後の畳部屋の使われ方を検討することを目的とする。

2. 調査方法

調査対象は畿央大学在学学生とする。調査方法は、質問紙によるアンケート調査、直接配布および直接回収である。

調査項目は①住宅形態や築年数など対象の住宅の実態、②用途や設えなど現代の畳空間の使われ方、③愛着性や機能性のある設えや装飾性のある設えについての認知などの畳空間に対する意識、④用途や設置したい設えなどの今後の畳空間の使われ方とする。

3. 考察

(1) 現在住宅の実態及び畳空間の使われ方の概要

畳の部屋数別の築年数は、畳の部屋数は少ないほど築年数は浅かった。しかし、少なくとも1室は畳部屋が住宅にあるという割合は全体の85%で大多数を占めており、畳部屋が無いという住宅は全体の15%に留まった。現代の畳部屋の設えは、「障子」や「押し入れ」といった、機能的な設えが多かった。対して、装飾的な設えは「床の間」が認められたに留まり、「違い棚」や「欄間」は少なかった。

(2) 男女別、畳部屋数別での畳空間への意識

男女別に見ると愛着を感じるかについては、性差はあまり見られなかったが、伝統性、日本の文化性、今後の設置については、女性の方が強い思いが認められた。また畳の部屋数別では、畳の部屋数が多くなれば畳部屋への愛着性、伝統性、日本の文化性、今後の設置については強いおもいが認められた。設えの認知は、男女別では全ての設えで女性の割合がやや高かった。畳の部屋数別では、築年数が古いものほど割合が高く、特に「欄間」や「長押」の装飾的な設えでのその差は大きかった。畳の部屋数別では、築年数が古いものほど認知の割合が高く、特に機能的な設えに比してその差は大きかった(図1、図2)。

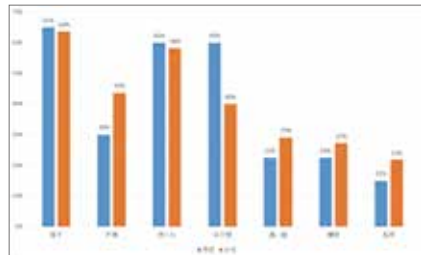


図1: 設え別男女の設えの認知の割合

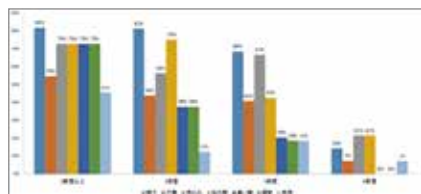


図2: 現在の住宅の畳部屋数別設えの認知の割合

(3) 現在住宅の畳の部屋の有無別の畳空間に対する意識

日本文化として残したいかについて、「感じる」及び「少し感じる」の合計は、現在住宅に畳部屋が無い人では79%、現在住宅に畳部屋が有る人では96%であった。しかし、現在住宅に畳部屋が無い人は畳に対する伝統を感じる、愛着を感じるが共に100%でありながら、畳部屋を日本文化として残したいかの問では、「感じない」が21%であった。

今後設置するかを現在住宅の畳部屋の有無に分けると、現在住宅に畳部屋が無い人では、「あまり思わない」36%であった。畳部屋に対し伝統を感じる、愛着を感じるが共に100%でありながら、畳部屋の設置には消極的な回答が多かった。また、畳部屋が有る人では、「思う」62%、次いで「少し思う」30%で、今後の畳部屋の設置に積極的な回答が目立った。

(4) 今後の畳の使われ方

部屋の設えについて、現在の畳部屋が有る住宅にその設えがあり、将来畳部屋にその設えを設置したい人を見ると、「障子」は82%で最も多く、次いで「押入れ」は63%であった。現在の設えと同じく今後も、「障子」及び「押入れ」の機能的な設えの回答が多かった。また、装飾的な設えも積極的な回答がみられ、そのうち最も多かった「違い棚」も73%に達していた。現在住宅に畳部屋が有る人もしくは畳部屋にその設えが無いが、将来畳部屋にその設えを設置したい人を見ると、「押入れ」が50%で最も多く、次いで「障子」が44%であった。「違い棚」、「欄間」及び「長押」の装飾的な設えに消極的な回答が目立った。現在住宅の畳部屋が有る現在住宅にその設えがあり、将来畳部屋にその設えを設置したい人異なる認識が認められた。

設えで機能性が重視されているという大きな特徴がわかり、さらに詳しく見るため、性別や、畳の部屋数別に分けて考察した。

男女別では、「障子」や「押入れ」の機能的なものでは男性の方がやや多かった。対して、「違い棚」、「欄間」及び「長押」の装飾的な設えは女性の方が多かった。男性は機能的な設えだけに対し、女性は装飾的なものにも目を向けていた。

畳の部屋数別では、部屋数が多いほど欲しい設えに偏りがなく、部屋数が少ないほど、「障子」や「押入れ」の機能的なものに多く、「違い棚」や「欄間」、「長押」といった装飾的なものが少なかった。しかし男女別、畳の部屋数別に共通し、装飾的な「床の間」の設置したい割合は比較的高かった。

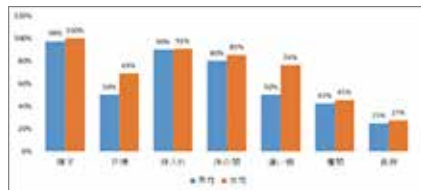


図3: 男女別の設置したい設えの割合

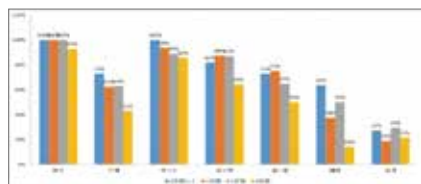


図4: 畳の部屋数別の設置したい設えの割合

4. まとめ

男性は、機能的なものに対して、女性は装飾的なものにも目を向けていた。畳の部屋数別では、部屋数が多いほど設置したい設えに偏りがなく、部屋数が少ないほど、「障子」や「押入れ」の機能的なものも多く、「違い棚」や「欄間」、「長押」といった装飾的なものが少なかった。しかし男女別、畳の部屋数別に共通し、装飾的な「床の間」の設置したい割合は比較的高かった。



インターネットによる通信販売 ～利用状況、注意事項、トラブルの有無などの情報提示～

西山ゼミ



本山 千恵
Chie Motoyama

1. 研究の背景・目的

パソコンや携帯電話が普及し、今日では日本国民の10人に8人がメールやインターネットを利用している。中でもインターネットによる通信販売の利用者は増えており、2013年の総務省の調査によるとインターネット利用者のうち8割がこれを利用している。しかしインターネットによる通信販売に関する情報が少なく、わかりにくい状況であるため、初めて利用する人は、不安を感じる人が多い。そこで、畿央大学における、インターネットによる通信販売利用者の実態を明らかにし、通販サイトの利用状況、購入等についての注意事項、トラブルの有無などの情報を把握し、これから利用する者、またすでに利用している者にも提示することを目的とする。

2. 通信販売の歴史 概要

通信販売は1871年にカタログによるものが、アメリカで始まった。そして、1876年には日本にも導入され、1949年、リーダーズダイジェストによるレコードの通信販売により急速に広まり、その後、媒体も雑誌広告、テレビ、ラジオ、インターネットと拡大した。

3. 研究方法

調査対象は畿央大学内の、男性教員62名、女性教員63名、教員計125名、女子学生69名、男子学生62名、学生計131名であり、総計256名とした。質問項目は図2とした。調査票は256部を配布、255の有効回答を得、回答率は99%であった。通

信販売の歴史の概要から通信販売環境の違いに着目し、年代別に考察する。調査期間は、平成27年9月10日、15日および11月24、25日の計4日間である。

表1 質問項目と回答の選択肢

質問	回答
1. 性別	男 女
2. 年齢	20代未満 20代 30代 40代 50代 60代以上
3. 職業	専業主婦 専業主夫 主婦 主婦パート 学生 無職 その他
4. 年収	10万円未満 10万円以上20万円未満 20万円以上30万円未満 30万円以上40万円未満 40万円以上50万円未満 50万円以上
5. 住居	単身一人暮らし 家族共々暮らし 賃貸 持ち家
6. 住居の広さ	10㎡未満 10㎡以上20㎡未満 20㎡以上30㎡未満 30㎡以上40㎡未満 40㎡以上
7. 住居の築年数	10年未満 10年以上20年未満 20年以上30年未満 30年以上40年未満 40年以上
8. 住居の築年数	10年未満 10年以上20年未満 20年以上30年未満 30年以上40年未満 40年以上
9. 住居の築年数	10年未満 10年以上20年未満 20年以上30年未満 30年以上40年未満 40年以上
10. 住居の築年数	10年未満 10年以上20年未満 20年以上30年未満 30年以上40年未満 40年以上

4. 結果と考察

① 通信販売の利用率は、教員、学生ともに約8割と、多かった(図1)。利用サイトを見ると、教員、学生ともに利用が多かったのは「Amazon」「楽天市場」2つであった(図2)。

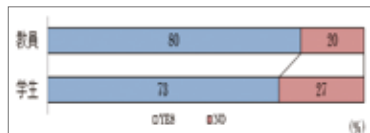


図1 教員、学生それぞれの利用率について
教員 n=124 学生 n=131



図2 教員、学生それぞれの利用サイト(MA)について

②利用の多かった「Amazon」「楽天市場」の購入物について見ると、教員、学生どちらも、「衣服」と「本」が多く、最も購入の多かった「衣服」の利用サイトを見ると、教員は「楽天市場」、学生は「Amazon」であった(図3)。



図3 「Amazon」と「楽天市場」とを利用している教員、学生の購入物(MA)

③利用頻度を見ると、教員、学生どちらも「気が向いたら」が最も多かった(図4)。上限金額について見ると、教員は「気にしない」が最も多く、対して学生は「5000円～1万円」が最も多かった(図5)。男女で見ると教員では、男性は「気にしない」が最も多く、女性は「5000円～1万円未満」が最も多かった。対して、学生では、男性は「5000円～1万円未満」が、女性は「5000円未満」が最も多く教員の方が上限金額が高い傾向にある(図6)。



図4 教員、学生それぞれの利用頻度

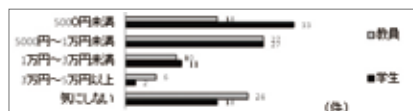


図5 教員、学生それぞれの利用頻度

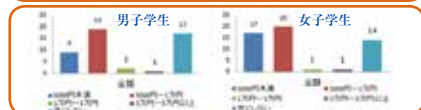
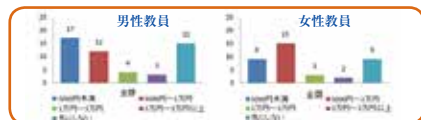


図6 利用頻度で「気が向いたら」と答えた人の上限金額(MA)

④トラブルにあったことがないのは、教員91%、学生96%であり、ほとんどの人がトラブルにあっていなかった(図7)。利用上の利点について、教員では、男性、女性ともに「家まで届けてくれる」が最も多く、学生を男女で見ると、男性は「お店にないものがある」が最も多かったのに対し、女性は「家まで届けてくれる」が最も多かった(図8)。

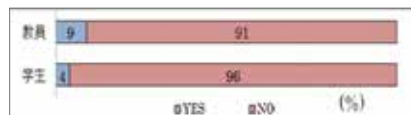


図7 教員、学生それぞれのトラブルの有無について
教員 n = 124 学生 n = 131



図8 非利用者の今後利用サイト、購入物(MA)

⑤通信販売を利用していないが、今後、利用したいと答えたのは、学生のほうが教員より多かった(図9)。今後、利用したい通販サイトは教員、学生それぞれ「Amazon」「楽天市場」の2つが多く、これら2サイトの認知度の高さが伺えた。購入したいものは教員、学生ともに「衣服」が最も多く、既に利用している人の購入先と購入物と一致していた(図10)。



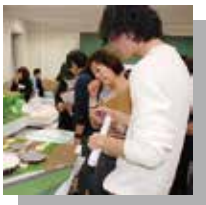
図9 教員、学生それぞれの今後の利用 教員 n = 25 学生 n = 131



図10 非利用者の今後利用サイト、購入物(MA)

今後は更に畿央大学以外の、年代別、学部別、職業別、雇用形態の違い、大学による違いなどを調べていき、インターネットによる通信販売の情報を開示につとめる。





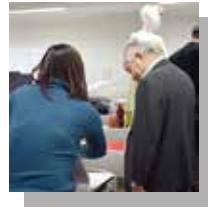
畿央大学 健康科学部 人間環境デザイン学科 第10回 卒業研究講評会

全体発表会 2016年2月10日 10:00～16:30

選抜発表会 2016年2月12日 13:00～17:00

会場：L101講義室





選抜発表者：

乾裕一
上地七菜
熊川 椋介
藤田大樹

志茂直樹
上田 加奈
小林 杏佳
村上 和也

堀田 晃平
荻原 邦彦
後和 伸之介
山片 実咲

松田 大雪
榮 南海
吉岡 俊輔
吉成 和真

山上 華奈
田中 佐右妃
延原 成穂
以上 22名

岩井 涼子
楠田 明大
福原 希
15グループ





平成27年度

卒業研究

学長賞

岩井 涼子

優秀賞

上地 七菜

上田 加奈

熊川 椋介

後和 伸之介

吉岡 俊輔

延原 成穂

藤田 大樹

以上 8名7グループ





2015年度畿央大学健康科学部
人間環境デザイン学科

卒業研究・作品展

会場：奈良県文化会館
会期：2016年2月27日(土)
10:00~18:00
28日(日)
10:00~16:00

たくさんのご来場
ありがとうございました。



講評

作品を自分の子供だと思って大事にしてください

今年も卒業制作・論文作品発表会の時がやってきました。10回目を迎えた今年、どんな作品・論文に出逢えるかとワクワクしながら会場を訪れました。期待通りに様々な作品に時間を忘れて見とれてしまいました。作品・論文を作成した皆さんは建築設計者であり、技術者であり、デザイナーであり、研究者でもあるのです。プロの技術者・研究者にとって作品・論文は自分が生み出した子供のような存在です。誇りをもって世に出していくと同時に、いつまでもそれを愛おしく思い、大事にするものです。どうか皆さんが作成した作品・論文を自分の子供だと思って大切にしてください。専門の先生方からは厳しいコメントもあったかもしれませんが、私は皆さんが一人ひとり全力を込めて作られたものだと思います。これからの長い人生で、きっとこの経験は貴重なものとして皆さんの心の中にいつまでも残ることでしょう。おめでとう。この思い出とともに元気よく社会へ羽ばたいてください。皆さんのこれからの期待を込めて見守っていきたいと思っています。

健康科学部 学部長
金子 章道

君たちは良くがんばった。

11月を過ぎて、やっと卒業制作に取り掛かるものが多かったので、完成するのか危惧していたのだが、あきらめずに、よくがんばった。きっと、大学4年間で一番の達成感を味わったことだろう。一生懸命に打ち込んで、考え、悩み、ものを作り上げるほうが、遊ぶより、何倍も楽しいことがわかっただろう。社会に出て、もし迷うことがあったら、この経験を思い出してほしい。

かの吉田松陰は松下村塾において、孟子の言葉を引用して子弟を鼓舞した。

「至誠にして動かざるものは、未だこれあらざるなり。誠ならずして、未だよく動かすものはあらざるなり。」と。

そこを出た草莽の士たちが近代日本を作り上げた。君たちに期待している。

人間環境デザイン学科 学科長
三井田 康記

最後の教え子たちへ

4年前の春に初めて出会いました。花冷えの伊根を歩き、秋の学祭の活躍を見て、授業中の私語を注意し、あっという間の1年間でした。そして、あっという間の4年間でした。

「毎日を生きた最後の日だと思って生きれば、希望通りになる。もし今日が最後の日だとして、今からやろうとしていたことをするだろうか。違うという答えが何日も続くようなら、ちょっと生き方を見直せ」(スティーブ・ジョブズ氏の言葉から)

時間は限られています。人生80年として、29,000日。その内、8,000日以上をあなたは使ってきました。だから、本意でない人生を生きて時間を無駄にしないでください。

何より大事なのは、自分の心に従う勇気を持つことです。あなたの心は、自分が本当は何をしたいのかももう知っているはずです。あなたの活躍を心から祈ります。

人間環境デザイン学科 主任
齋藤 功子

晴れやかにこの冊子を手にしていらっしゃる皆さんの姿を思い浮かべながら原稿を書いています。この一年、どれくらい本気になれましたか？最終的な完成度だけでなく、完成に至るまでの過程でいかに真剣に課題と向き合ったかを自問自答してみてください。

簡単に手に入るものはたやすく消えてゆき、得るのが困難なものほど自身の蓄えとなるのです。卒業研究に関しては怒涛のごとく過ぎ去った一年でした。叱ってばかりいたような気もします。

時が流れ、皆さんに面倒な課題を突きつけられた日々を懐かしく思い返す日が訪れたら嬉しいです。

卒業おめでとう。今後のご活躍を祈念しています。

東 実千代

卒業研究作品提出の最終締め切り直前に交通事故で入院したため、作品発表日に、みなさんの努力の成果を見ることができず申し訳ありませんでした。全体的にレベルが昨年より高かったようで、頑張ってくれたことに対して褒めてあげたいと思います。結果として、作品に対する評価が良かった人、そうでなかった人もいると思いますが、後悔のないように頑張ってくれたなら、自分に対して高い評価を与えてください。私自身も、みなさんと同様にこの3月で卒業です。でも、もっと色々頑張っていればよかったなと後悔しています。みなさんは今後、色々な目標を与えられ、自ら目標を見つけることも多くなると思いますが、悔いのないよう頑張ってください。

中山 順

畿央大学での学びの集大成として取り組んだ、卒業研究号の1年間の航海が終わりました。着任1年目で、初めてプレゼンテーションを受けましたが、すべての制作、論文から「自分のできることをちゃんとやりたい」という強い思いが伝わり、皆さん、船出前より確実に成長した自分という宝物を手に入れ、港に戻ってきたように思います。

決して順風満帆ではなかったと思います。おそらく何度も難破しそうになったことでしょう。その困難を乗り越えた自信を胸に、さあ次の船出です。前向きに頑張ってください。卒業おめでとうございます。

西山 紀子

〇〇君はいつの間にか皆が期待以上に成長したことを、△△君は若者が今も希望を持ち続けていることを教えてくれました。××君は建築が未だ人々に夢を見せ得ることを示してくれました。今年は幾つもの素晴らしい作品を見ることができ幸せな思いです。

勿論、望外の評価を得て満足した人がいる反面、悔しい思いをした人もいます。しかし大切なのは、他人の評価ではなく、この一年(?)君達が過ごした時間そのものです。「コロンブスが幸福であったのは、彼がアメリカを発見した時ではなく、それを発見しつつあった時である。幸福とは生活の絶え間なき永遠の探求にあるのであって、断じて発見にあるのではない(ドストエフスキー)」のですから。過ごしてきた苦しくも幸せな時間を忘れず、これからの人生への糧にされることを望みます。

いよいよ別れの時、一抹の寂しさを禁じ得ませんが、君たちの輝かしい未来のために祝杯を贈ります。近い将来、返杯を・・・待っています。

藤井 豊史

この作品集をみる時は毎年卒業式になります。小さな冊子ですが皆さんの学生時代の思い出が集約されたものといえます。卒業研究に取り組まれた人を強引に4つに分類しますと、1つ目は力を存分に出し尽くして作品にも満足している人。2つ目は精一杯頑張ったけれど満足できなかった人。3つ目はそれほど熱心ではなかったが作品には満足している人。最後はさぼっていて案の定散々な結果であった人、という4つです。1つ目の学生も例年より多かったと想像しますが、2つ目の悔しい思いをした人のほうが多かったのではないのでしょうか。その悔しさをバネにして、今後は社会に対して「力」に変えていってほしいと願います。また、作品講評会初日お忙しい中、冬木学長先生に来ていただき学生作品を丹念に見てもらったことが印象に残っています。講評とは少しそれてしまいますが、自分自身にも言い聞かせている3つの言葉を最後に贈ります。

①ウソをつかない。 ②人のことをいわない。 ③自分で決める。

加藤 信喜

卒業研究発表会が終わりました。

作品制作にはたくさんの工程がありましたね。

何度も「やり直し」を命じました。

辛そうな表情を見ると「もうこのへんでいいかな」と思ったこともありますが、心を鬼にしました。

そのやり直しの意味を伝えると、納得してすぐにやり直し作業に入る。

その素直さに成長の伸びしろを感じました。

とても気持ち良く卒業研究の指導ができた1年でした。

みなさんはこれから社会に出ていきます。

その素直さを大切にしながら素敵な大人に成長してください。

村田 浩子

人間環境デザイン学科10期生のみなさん、お疲れ様でした。この1年間、畿央大学で4年間学んだことの集大成としてひとつのカタチに仕上げるまでいろいろと苦労があったかと思えます。ひとり、またはチームとなって就職活動と同時に卒業研究のテーマを決め、予備調査とディスカッションなど、ひとつの「カタチ」にするまで、試行錯誤を繰り返しながらやり遂げた結果に対する達成感、満足感は今やしっかり身につけているはずです。苦労したことも楽しかったこともすべて忘れられない素敵な思い出となり、今後この貴重な経験は社会人の仕事においてしっかりと活かされることに間違いないでしょう。最も怖い敵でもある自分を信じて前向きに頑張ってください。いつも陰ながら応援しています。

李 沅貞

私はみんなが4年間のすべての力を出し切った卒業研究の発表会をまさかの体調不良で休むはめになってしまい、楽しみにしていた行事を展示会で拝見することになりました。展示会の静かさの中でただただプレゼンボードを見て、作品を見て、概要を読んで論文を手にとって…寂しかったです。と、同時に生で聞きたかったー！と本当に思いました。“おもしろい！どんな思いで作ったのだろう”“ここはどうなってるの？”“なるほど、ということは…”とひたすら独り言でした。…本当にごめんなさい。一生懸命な姿見たかったです。

この作品集にみなさんの大事な人生の一部が記録されました。4年間いろんな苦悩があったことと思います。大学生生活必死だったと思います。しんどかったと思います。だけど卒業研究が終わって気持ちは晴れ晴れしていませんか。それは乗り越えたからです。決して平坦な道をみなさんは歩んできたわけではありません。だからこれからの進む道がどれだけ険しくても乗り越えられる力はもう備えられました。あとは自分を信じるだけ。もしも後悔することがあればそれを反省に。自信を持ってまだまだ長い人生を歩んでいってほしいと思います。

奥村 亜希

皆さんお疲れ様でした。

今年は一部の学生を除いてスタートがとてつもなく遅く、ハラハラしてしていました。M先生提案による共同研究室入り口の「締め切りまであと〇日！！」の掲示も効き目があるのかないのかわからない、マイペースなあなたたちでした。事務局からも「今年は例年になく徹夜の学生が多いですね！！期待できるんじゃないですか？」との言葉を頂きました。が、「それはスタートが例年になく遅かったからなんです…。」とは言えず、笑って済ませることしかできませんでした。

しかし、なんとか短期決戦で追いつけて見られる作品に仕上げてくれたようですね。

ただ、今後社会に出てからも、短期決戦で通用するとは思わないでください。仕事は小さくて誠実な作業の積み重ねです。皆さんは「自分は出来るんだ」と自信を持って構いません。しかし、徹夜や短期的追いつげに頼ることがないように、堅実に生きていってほしいと思います。

長井 典子

本学における四年間の学修の集大成として、学生諸君がまとめた卒業研究・制作の成果発表を、私自身の自己啓発の意味も込めて、今年も視聴させてもらった。

本学科の性格上、その内容が広範囲で多岐にわたる中で、どの分野の作品も、学生諸君の身近な生活に根ざした課題を探求・発見・創造したうえで、本学で修練した専門の知識・技術を駆使し、豊かな生活環境の創造に向けて、若者らしい多くの可能性を秘めた提案がなされていた。今年も、小職が専門とする建築に関するテーマに期待を寄せて見せてもらった。作品の約半数が建築に関するテーマで、二次発表に残ったテーマも過半が建築に関するものであったので、非常に興味深く有意義な機会となった。

「建築は人やまちを元気にする」と言う言葉がある、建築は、人が集まることで、場所も生き生きとする、そういう空間の可能性を追求しようとした作品が多かった。

多くの作品に込められた提案が、卒業研究のための一過性のアイディアにとどまることなく、発展的に有効に生かせるようなものに昇華させてくれることを期待している。

岡井 豊治

人間環境デザイン学科 教員

教授
学 科 長 三井田 康記
主 任 齋藤 功子
東 実千代
中山 順
西山 紀子
藤井 豊史
准教授
加藤 信喜
村田 浩子
講師
李 沅貞
特任助教
奥村 亜希
長井 典子
特任講師
岡井 豊治

作品集 編集委員
長井 典子
奥村 亜希
東 朝美
小笹 夏海
佐野 芹奈
清水 美裕
多田 遥香
田中 翠
大道 康輝
藤山 大輔
保坂 ゆき
村上 桃
山口 夏奈
吉川 凌
束花 颯斗
辻村 誠
西森 裕十
益田 翔平
松下 由依
以上

